

# 1月～3月期 会員景況調査結果

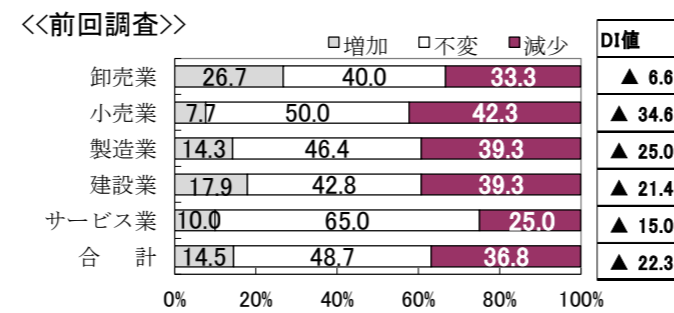
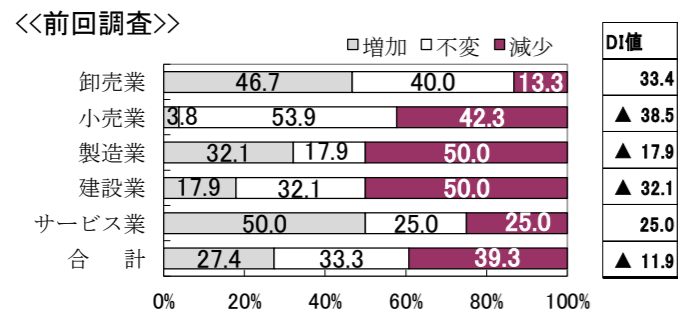
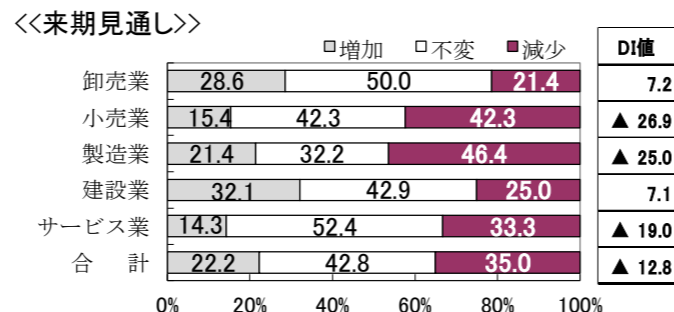
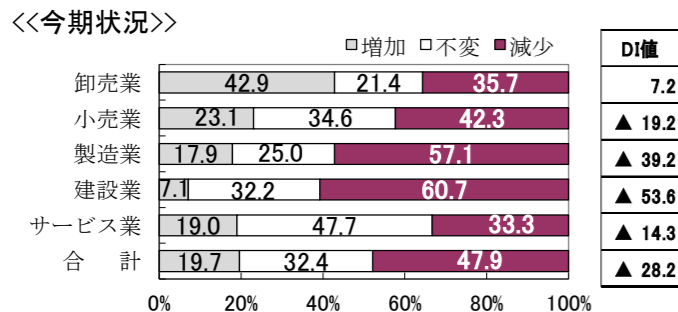
# 速報版

調査協力企業用

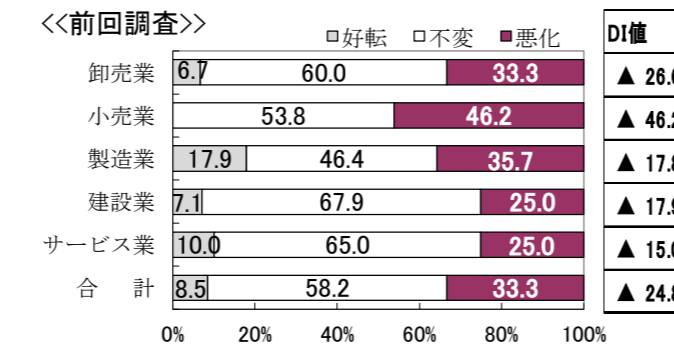
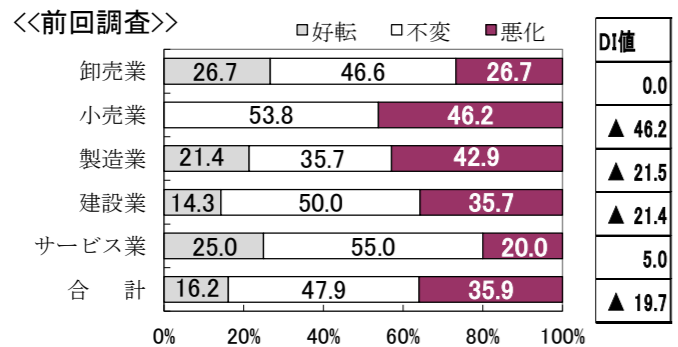
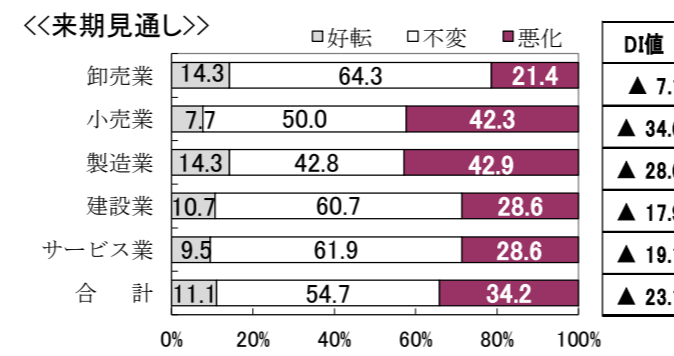
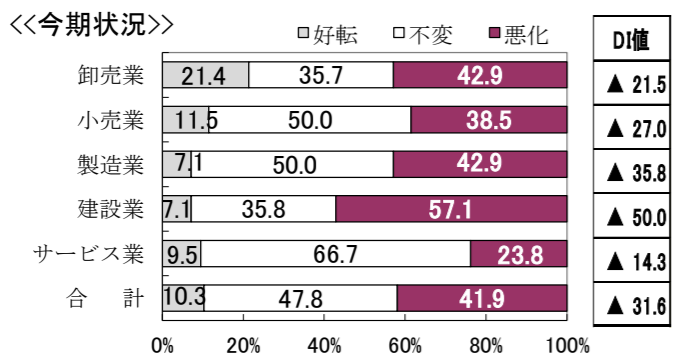
- ◇ 調査対象 小千谷商工会議所の会員企業の中から、卸売業・小売業・製造業・建設業・サービス業を対象に実施した。
- ◇ 調査対象期間 令和6年1月～3月期の実績及び令和6年4月～6月期の見通しについて調査した。(前回調査：令和5年10月～12月期)
- ◇ 回収状況 125 企業中、117 企業より回答を得た (回答率 93.6 %)

◆令和5年度より、飲食店を「サービス業」として分類します(旧分類：小売業)  
サービス業と小売業の令和5年度の調査結果の前年比較は「参考値」となります。ご了承ください。

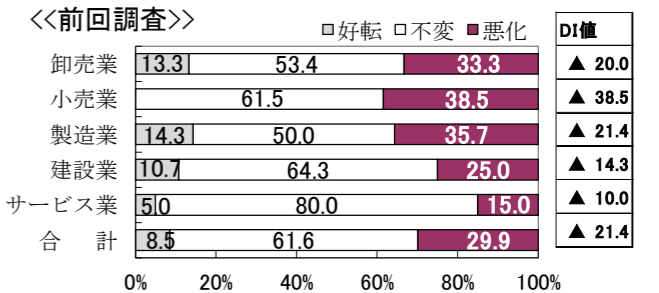
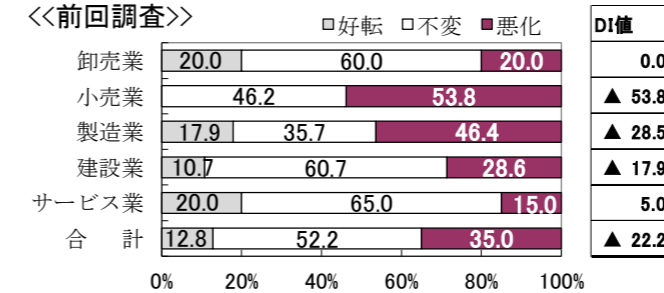
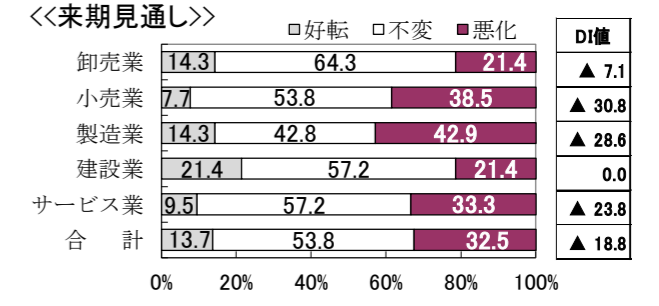
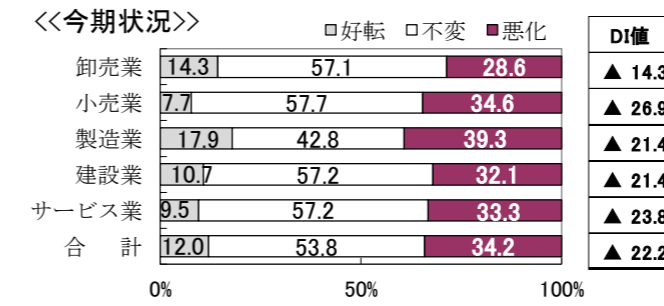
## 1. 売上高の動向(対前年同期比)



## 2. 経常利益の状況(対前年同期比)



## 3. 自社の業況(対前年同期比)



## 4. 業種別・今期の経営上の課題・問題点

業種	業種概況		
	1位 (23.5%)	2位 (21.6%)	3位 (15.7%)
卸売業	仕入単価の上昇	従業員の確保難	人件費以外の経費の増加
<<コメント>>◆売上伸び幅は能登半島地震による自粛ムード、小雪によるスキー場関係の不振によりごく小幅に留まっている。(飲食料品卸) ◆エネルギー・包装資材等の経費の増加を商品価格に転嫁できない。(飲食料品卸)			
小売業	仕入単価の上昇	消費者ニーズの変化への対応	人件費以外の経費の増加 需要の停滞
<<コメント>>◆今までは仕入値が上がったらその分価格転嫁できたが、この先も同じようにできるか不安。お得意様が少なくなるから次の展開をしたいが今の業務をこなすのが精一杯で事業が停滞している。(飲食品) ◆来店客数減少。販売単価低下、仕入単価上昇等売上を作ることが非常に難しい。(織物・衣服)			
製造業	需要の停滞	製品ニーズの変化への対応	生産設備の不足・老朽化 原材料費・人件費以外の経費の増加
<<コメント>>◆材料工具費、人件費、光熱費等の経費をいかに単価に反映させるかを取引先と交渉しなければならぬが、受注減少などの影響から停滞している。(機械器具) ◆ハローワークで求人しているがなかなか求職者が現れず、かといって民間に頼るほどゆとりもなく困惑している。(機械器具)			
建設業	従業員の確保難	材料価格の上昇	人件費の増加
<<コメント>>◆降雪がなく除雪関係企業はお手上げ。この傾向は続く可能性があり対策が必要。また、慢性的な人手不足は企業存続に関わる。(土木・建築) ◆材料費・人件費及びそれ以外の経費の増加のリスクを抱え、予測のつかない厳しい状況。住宅リフォーム補助金制度の継続で、顧客の購買意欲が高い。(建築工事)			
サービス業	材料等仕入単価の上昇	店舗施設の狭隘・老朽化	従業員の確保難
<<コメント>>◆物価高騰の為来店頻度に間延びがおきている。(美容) ◆材料の価格高騰。コロナ以降あまり変化なし。(飲食)			

### DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向の回答割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向の回答割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味する。

$$DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)$$

本調査結果〔速報版〕を当所HPに掲載しております。次回調査は5月の予定です。今後ともご協力をお願いいたします。